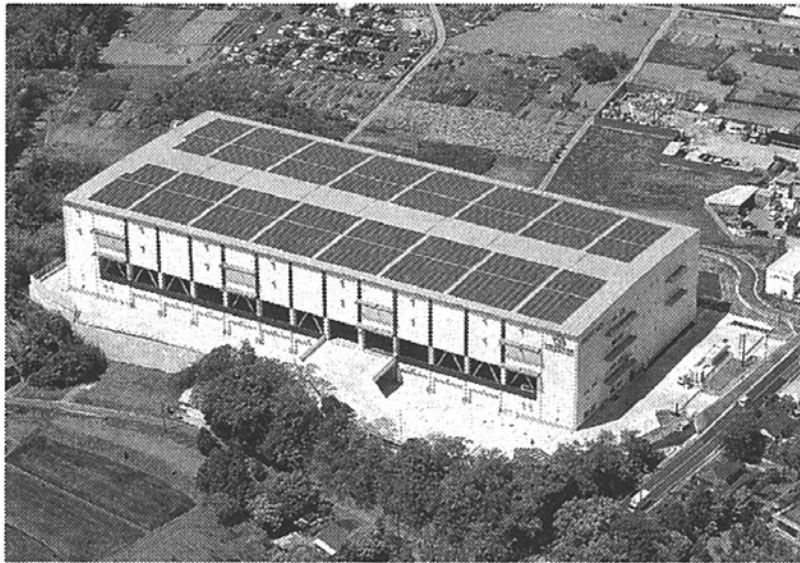


順調稼働、8割埋まる

ダイワコーポ 千葉北営業所

利便性の良さが強み

ダイワコーポレーション(本社・東京、曾根和光社長)は精力的な拠点整備を進めている。四月には千葉県に「千葉北営業所」をしゅん工。今夏までに利用荷主が決まり、約八割を稼働、残り二割は鋭意顧客開発中だ。(小林 孝博)



ダイワコーポレーションは10年以上前から保有を検討してきた好立地に新拠点を構える

五月に運用を始めた新営業所の所在地は、千葉県千葉市花見川区檀橋町九九五ノ一。敷地面積約一万八千六百平方メートル。四階建て、賃貸面積約三万七千八百平方メートル。同社専用施設として、大手物流不動産のレッドウッドが建設した「千葉北ディスプレイ」を二棟賃借した。トラック配送に優れた利便性の良さが最大の特

長。新拠点は首都圏を環状に結ぶ国道一六号に交わる県道六九号線沿いに立地。約二キロの位置に東関東自動車道の千葉北インターチェンジがあり、関東一円、東北方面への効率的な輸送ができる。

2階直接結ぶ スロープ設置

「国道一六号沿いは物流需要が高く、当社が十一年以上前から拠点保有を構想していたエリア。多様な貨物の納品に対応できる好立地を評価し、一棟全て賃借することにし

た(曾根社長)。
構内には二階に直接車両を乗り入れることがで
きる巨大スロープを設
置。一階、二階にそれぞ
れ二十バースを整備し
た。高い利便性を活用
し、生活関連用品などを
扱う物流拠点として活用
する。

ダイワコーポレーションは、昨年も船橋西浦営業所(賃貸面積約三万一千平方メートル)、横浜本牧営業所(同約六万九千八百平方メートル)などを開設。積極的な拠点整備とともに、顧客課題を解決する物流サービスを提供し事業を拡大している。曾根社長は「千葉北営業所はさまざまな使い方に対応できる最新倉庫。今後も需要に応じ施設整備を進めたい」としている。